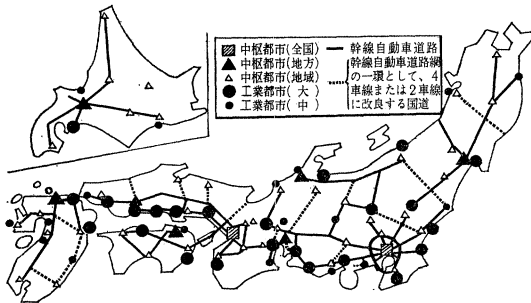


●建設省 20 年後の国づくりの基本構想を公表 一年余りの立案作業期間を経て、この程建設省は 20 年後の国づくりの構想を発表した。この構想は第一の目標を 20 年後における公共施設の整備水準を現在の西欧先進国なみにすることにおき、その具体的な方策として、将来の日本の姿をその地域の特性に応じて設定、この実現化のために必要な自動車道路網の建設と、拠点都市の整備を主軸とする構想である。建設省が今日までに公表し

20 年後の国づくり基本構想図



た「道路建設 5 ヵ年計画」,「治水事業 5 ヵ年計画」,「住宅建設 7 ヵ年計画」は同構想の一翼になうもので、同構想達成には総額 42 兆円が試算されている。基本構想の主な内容は基本目標として前記の西欧水準までひきあげること、中核都市の整備のほかに生活環境の整備充実、産業基盤の育成強化、災害のない国土の建設をあげている。国土の将来像としては今日の京浜、阪神の 2 大中核都市集中の傾向は急には是正しがたいが、地域格差を修正しようともくまれ、実現への施策として道路を 20 年間に 6500 km を建設して西ドイツの水準までひきあげ、拠点都市の公共施設の充実をはかろうとしている。まず、最初に問題となることは、ここ 10 年間ぐらいに東海、瀬戸内および東関東を重点地域として、幹線自動車道路網のうち約 3000 km を完成、拠点都市について工業地区および住宅地建設、都市施設の整備、大工業都市の育成、京浜、阪神の周辺に大規模な新都市を建設すること、これらに必要な水を確保するために多目的ダムを建設するとある。本構想をみるとき総額 40 兆円にのぼる資金の確保が問題となるが、これは今後の経済成長によりまかなえるとしている。本構想を実施するにあたっては土木技術者の今日以上の努力が期待されるものであるとともに、それに答えられるだけの技術的な裏づけが必要となろう。

●消えゆく都電杉並線 大正 10 年 8 月、西部軌道会社により建設され、昭和 17 年、都の交通局の経営に移された都電杉並線(東京都荻窪—新宿駅西口間 7.6 km)

が昭和 38 年 11 月 30 日を最後にその 42 年の生涯に別かれを告げた。昭和 30 年以來の数年間はキロ当りの収入は都内最高といわれたこの「ドル箱路線」も昭和 37 年 1 月の地下鉄荻窪線開通と青梅街道のラッシュに起因するスピードの低下のはさみうちに会い、複雑化工事終了後 7 年半で都電撤去対象第 1 号となったわけである。今日、大きな話題を呼んでいる都市交通問題のよきにつけ悪しきにつけ、一つの姿を示すものとして注目に値しよう。

●リレー衛星による日米テレビ中継成功 昭和 38 年 11 月 23 日、5 時 27 分 42 秒、茨城県多賀郡十王町国際電々会社宇宙通信実験所のモニターテレビはアメリカからのテレビ電波を見事に受信、ここに今日の電子工学は本年のオリンピックの世界同時放送の夢をより身近なものとして開花させた。同放送はアメリカ モハービ地上局(アメリカ大太平洋側)から発信されたものを 1 万 m の上空を飛ぶ衛星でキャッチ、中継された微弱な電波を十王町にある国際電々会社宇宙通信実験所の直径 30 m の巨大なドームの中にある、直径 20 m のパラボラアンテナで受信したもので、その技術的なむずかしさは空から降ってくる一本のピンをおわんで受けとめるようなものと形容される。同日、続いて 9 時から 15 分間アメリカより送られてきた電波は生々しい悲報を日本の視聴者の前に伝えた。第 35 代アメリカ大統領ジョン・F・ケネディ氏の暗殺の知らせである。この歴史的な太平洋間のテレビ中継に、この悲報を送らねばならなかったアメリカの悲しみは、すなわち自由を愛するわれわれの悲しみでもあり、ここにつつしんで哀悼の意を表する。氏はアメリカにおいて忘れられつつある鉄道事業に対し深い理解をもち、これを再び陽のあたる産業にすべく努力されていたと聞いております。

●ソビエトより交換教授来日 先回、訪ソし教壇に立たれた東北大学教授 原田干三氏、土木学会東北支部などが中心となって、モスクワ自動車大学副学長、教授である J.F. バブコフ氏を日本に招いた。同氏は第 10 回国際道路会議、第 4、5 回国際土質工学会議にも出席、論文提出を行なったソビエトにおける寒地道路技術の権威といわれ、今回氏の滞日期間は昭和 38 年 11 月 26 日より 3 週間といわれる。これを機会に日本の土木界の現状をよく見ていただくことは、両国の将来にとってプラスになることが多いことであろう。

●ラムダロケット発射実験成功 昭和 38 年 12 月 11 日、東大鹿兒島宇宙空間観測所より「ラムダ 2 型 2 号機」(2 段式、長さ 16.5 m、重さ 6.2 t) が試験発射され、高度 410 km、水平距離 16.5 km を飛び実験は成功した。今後の技術の向上を願うとともに、今回の成功をよろこびたい。